

社会・文化・教育



キーワード：言語学、語用論、ポライトネス

社会で役立つ言語学の知識

国際学部 国際学科 特任教授
西川 真由美 NISHIKAWA Mayumi

研究の内容

言語学とは、言語の仕組みや言語使用を科学的に考察する学問で、社会的・文化的な役割についても研究します。伝統的な言語学として統語論、意味論、音韻論等がありますが、私の専門は語用論という分野で、特に言語運用の面からことばの使用や伝達の仕組みを考えていきます。特に認知語用論は、伝達された言葉が聞き手にどのように解釈されるか、そのメカニズムを考察する学問です。同じ発話でも、状況によってさまざまに解釈されることがあるので、伝える方は常に相手にできるだけ正確に伝わるように言葉を選んでいかねばなりません。

具体的には所謂「談話標識」（日本語の「やはり」「しかし」等と呼ばれる言語項目）を研究しています。これらは聞き手が発話解釈をより正確かつ効率的に行えるよう促すために戦略的に用いられる項目です。さらに、対人関係を考えるうえでも、語用論は非常に大切な学問分野になります。どのように言葉を使えば人を傷つけることなく、あるいは好意的に言いたいことを伝えることができるのかは、忙しい現代社会では重要なことです。日本語では敬語というシステムがありますが、世界の文化や社会によっては「何が丁寧か？」は微妙に異なります。語用論では、ポジティブポライトネス・ネガティブポライトネスといった概念を取り入れ、より深い観点から対人関係を考慮したコミュニケーションのあり方を考えています。

産学連携・社会連携へのアピールポイント

サービス・ホスピタリティ産業においては、ポライトネスを考慮した言葉遣いが非常に大切です。マニュアル敬語ではなく、広い意味でのポライトネスを意識したコミュニケーションについて、多様な文化背景や価値観をふまえた国際共生という観点からもアドバイスさせていただきます。

研究者総覧（西川 真由美）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001007_ja.html

